

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年2月12日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690100787		
法人名	医療法人社団 萩野医院		
事業所名	グループホームやまだ		
所在地	富山県富山市山田沼又88		
自己評価作成日	平成31年1月4日	評価結果市町村受理日	平成31年2月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成31年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は美しい環境の下で「ゆっくり 楽しく 和やかに」の理念を軸に、穏やかな暮らしをしています。「声をかけて 耳を傾けて 手を触れて」の事業所目標も大事にして、よく気づき良好なサービスの提供に努めています。萩野医院とは密に連携し、健康管理や看取り介護を実践しています。今後も更に地域資源を活用し、質の高い介護を行い、本人や家族、地域から信頼される事業所を目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は自然豊かな山あいであり、経営母体である萩野医院との医療連携に守られ、適切な医療が受けられ利用者は心穏やかに生活している。終末期を迎えた時には、利用者や家族の思いを大切に、終の棲家として最期まで安らかに過ごせるよう、職員はサービスのレベル向上に取り組んでいる。また、春祭りや季節の花見に出かけたり、地域の催事には積極的に参加するなど地域の交流を大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームやまだ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年も理念の研修を行い、理解や認識をし職員で共有し実践に繋がっています。そして、事業所目標は職員で話し合い、新たに作り、毎朝、理念と共に唱和し、よりよいサービスの提供に努めています。	法人共通の基本理念に加え、事業所独自の「声をかけて、耳を傾けて、手を触れて」を目標に定め、職員全員が共有できるよう、ミーティング等で唱和している。日常業務においても、理念がケアサービスに反映されているか確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年も保育所から声をかけてもらい訪問をしています。交流会や避難訓練は、地域の方が来て下さり、相互の協力を得て実施しています。そして、春祭りを見学したり、飲食店での歌謡ショーにも行き、地域と付き合いながら暮らしています。	地域住民との交流を積極的に図ることで、利用者の生活が今まで通り継続されるよう努めている。利用者は併設のデイサービスの人達と保育所へ招かれ、園児の踊りや人形劇を楽しんだり、また春祭りに参加するなど、地域との交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、交流会や避難訓練などの際、地域の方々に声をかけ来て頂き、当施設を理解してもらっています。随時、入居相談も対応しています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	研修や行事、第三者評価結果、身体拘束等の適正化について、事例を基に話し合った内容を報告しています。貴重な意見や感想を頂き、サービスの提供に活かしています。	運営推進会議は定期的開催されている。事業所からケアの様子や行事の予定などが報告されており、委員からは認知症ケアに対する注意点や高齢者の虐待などについて意見が交わされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎年、第三者評価を受審しており、結果を市に提出しています。個人情報を取り寄せの際は、行政センターに依頼書を提出しています。法人本部は市と密に連携を取っており、協力関係が築かれています。	地域包括支援センターが運営推進会議に加わっていることもあり、入所待ちの状況を聞き取りしたり、認知症ケアの対応について相談するなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度は身体拘束等の適正化の指針を作成し、研修を行っています。人権を守ることをが、介護の基本であるという認識を持ち、安全を確保しながら、自由な暮らしを支援するよう、職員で共有し取り組んでいます。	高齢者の権利擁護や身体拘束をしないケアに関して勉強会を開き、職員全員が認識を共有できるよう、機会あるごとに確認している。利用者の人権を守ることが基本であり、今年度は「身体拘束適正化の指針」を作成し、委員会を立ち上げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、虐待について研修を行い理解に努めています。困難な事例があると職員で話し合い、介護の工夫をしたり、主治医と連携し周辺症状の軽減に努め、虐待が起こらないよう注意をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者に日常生活自立支援事業を活用している方がおられます。成年後見制度も申請しておられ、職員はそれらについて学び、理解に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は、契約内容を十分に説明し、理解をして頂き締結をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、入居者や家族等の意見や要望を聴くようにしています。また、アンケートからの意見や要望を大事に思い、運営に反映しています。	毎年「家族交流会」を開いており、その折に意見や要望を聞き、日常の様子をDVDで見てもらったり、利用者の思い出話などで家族同士の交流や情報交換の場となっている。本人や家族からの意見、要望は運営に反映させるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、よりよい介護が出来るよう、職員の意見や提案を聴いています。それらを法人本部に伝え、運営に反映させています。	日常業務において、管理者は職員から意見が自由に出るよう、日ごろから職員の声に耳を傾け活かしている。トイレの手すりをもっと増やしたらとの職員の提案に、早速取り組み利用者に喜ばれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は人事考課制度を活用し、職員全員の勤務状況や努力を把握し、代表者に伝えていきます。それらが給与に反映され、やりがいを感じられる職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、介護の質の向上のために、職員に応じた外部研修の受講を勧めています。法人では内部研修を計画し実施しており、その学びが現場で活かせるよう取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、同業者と交流する機会をつくるよう勧めています。外部研修に参加した際には、お互いの職場の状況を語り合い、サービスの質の向上に努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より本人と面談し、心身の状態などを確認しながら、思いを聴いています。入居後も不安なことや要望などを傾聴し、誠意ある対応をし、安心できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から家族と面談し、困っていることや不安、要望に耳を傾け、誠意ある対応をし信頼されるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や以前の介護支援専門員からの情報、本人や家族の不安や要望から、初期の介護計画を作成しています。そして、入居時の心身の状態から、課題の優先順位を考え、サービスを提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員は家族のように一緒に過ごし、やりたいこと、出来る力を知り、互いに支え合い、お礼の言葉をかけあいながら共に過ごしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居されても、本人にとって家族が一番の頼りであることを話し、出来る限り面会に来て頂き、一緒に支えて頂くようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	子供や孫、弟妹、友人などの面会は自由にしてもらっています。ゆっくり会話をされ、安心している様子が見られています。自宅へ行かれ、ゆっくり過ごされてくる方もおられます。	利用者の馴染みの場所や人との関係が途切れないように努めている。併設されたデイサービスの利用者とも交流があり、友人を見つけて会話を楽しんでいる。地域の床屋の来訪もあり、利用者は喜んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を把握し、関係の支援をしています。声をかけ、孤立しないよう配慮をしています。そして、入居者同士が支え合う場面も見られています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方には、この後も相談に応じることを伝えていきます。他界された場合では、通夜や葬儀に参列し、家族支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の言動や行動、これまでの暮らしから、思いや意向を把握し、その人らしく暮らしが楽しめるよう支えています。困難な場合は、問い掛けや選択できる話し方をし、小さな顔きも見逃さないようにしています。	日々の関わりの中で、利用者一人ひとりの表情を観察し、コミュニケーションを図りながら利用者の思いや意向の把握に努めている。困難な利用者には、孤立させることなく寄り添いながら、心の変化を受け止めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの把握は、この後の生活を支えるための大切な情報であると認識しています。本人や家族から聞いたり、以前の介護支援専門員からも情報を得て、把握をし支えています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方、心身の状態、できる事などを、見守りや介助をし、毎日、日誌に記録し、申し送りも行い、現状の把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態や発言などから、課題が出てくる。職員で話合ったり、家族と相談をし意見をもらい、介護方法が提案される。それらから介護計画を作成し、介護を実施しています。モニタリングも行い、次の介護計画に活かしています。	本人、家族から意見や今後の暮らし方の希望などを聞き、本人の出来ることや意欲ある生活が送れるように職員間で話し合い、介護計画の作成に努めている。職員間で日ごろの気付きや介護の工夫などの意見があれば、確認をして見直しを図っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の記録は、個別の日誌に状況がわかるように書き、申し送りをしています。新たに介護の気づきや工夫があると、申し送りノートも活用し、情報を共有し実践しています。それらが、介護計画の見直しに活かされています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況に応じ、声かけや対応を柔軟に行っています。入居者の中に、隣接するデイサービス利用者を知り合いがおられ、時に交流をしたり、運動会は賑やかに合同で行事を行っています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容店より毎月、訪問があり整髪や髭剃りが受けられています。施設周辺を散歩し、パークゴルフ場に来ている方々と声をかけ合い楽しんでいます。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の説明をしています。毎月、往診が受けられ、随時、医療連携がとれることから、全員が母体施設の萩野医院を主治医に希望されます。専門医の受診が必要な時は、紹介をしてくれます。	母体の医療法人から月2回の往診がある他、いつでも適切な医療が受けられるよう連携が密に図られている。利用者、家族にとって安心して過ごせる体制となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は体調の異変に気づくと、看護師に相談をしています。看護師は早急に母体施設の萩野医院に連絡し、適切な対応をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早々に地域医療連携室と連絡を取り、安心して治療が受けられるよう情報提供をしています。また、退院に向けても相談をしています。退院が決まると、本人と面談し、退院カンファレンスにも参加し、今後の生活が安全で快適になるよう介護計画を作成しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの状態と主治医が判断した際、主治医から家族に病状の説明をします。介護支援専門員は本人の病状や思いに合わせ、家族や医師、看護師、介護職員と話し合い、介護計画を立案します。苦痛の緩和や精神面の支援、会いたい方に来て頂くなど、最期までその人らしく安心できるようチームで支えています。	終末期ケアに於いては、利用者の尊厳を守り、医療、家族と連携を図りながらチームで取り組んでいる。職員の看取りに対する意識も高く、家族を支え、利用者が最期まで穏やかに過ごせるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応マニュアルがあります。急変や事故発生時には管理者に連絡をし、職員間の緊急連絡網を回す対応をしています。今年も救急蘇生研修を受けた職員がいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は毎年、春は夜間想定、秋は日中の想定で、地域の消防署や住民の方の協力を得て行っています。今年も災害マニュアルを作成したり、備蓄の内容も見直しをしています。	避難訓練は、隣接するデイサービスと一緒に実施している。現在災害マニュアルや備蓄品の見直しを進めているが、立地条件による災害を考慮し、利用者の安全確保を第一に考えて取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修の度に、入居者を尊重した介護が大事であることを話しています。プライバシー保護の研修では、入居者の心理を再認識し、不快な思いにさせない対応を話し、思いに寄り添う介護に努めています。	利用者一人ひとりに寄り添い、人格を損ねない対応を職員間で注意しながら取り組んでいる。新しい利用者を迎えた時には、言動を全面的に受け止め、思いやりのある言葉かけを行い、落ち着いた生活リズムが整えられるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつも入居者の言動や行動、表情などを見て、問いかけをしたり、選択できるよう話かけ、思いや希望を知り、その対応をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや希望を大切に思い支援をしています。起床時間や朝食を遅くしたり、午睡したい時も休んでもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時はホットタオルで顔を拭き、髪をといたり、髭剃りの介助をしています。今年も職員の手で顔や手をマッサージしたり、お化粧をし、心を和ませ楽しむ行事を計画し実践しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「自分で食べたい」「好みの食べ物を食べたい」という思いを大切にしています。入居者と職員は家族のように一緒に過ごし、食事をしたり、片付けをし過ごしています。	利用者の体調を見ながら、食事時間や食事場所も柔軟に対応している。介助の際にも、本人の「自分で食べたい」との意欲を大切に、また視力が悪い利用者には、一皿ごとに説明を行い、食事が楽しみになるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに応じた食事形態で食べられる量を出しています。食事や水分の摂取量を気にし、観察し摂取の介助もしています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	今年は歯科医師より「高齢者の口腔機能と口腔ケア」の研修を受け、理解を深めています。職員全員で協力し、一人ひとりに応じた口腔ケアを見守り、介助をしています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりのできる力や排泄パターンを把握したり「トイレで排泄をしたい」という気持ちを理解し介助をしています。	便座の手すりを追加したことで、利用者がつかまりやすく立ち上がりもスムーズになり、安全性や介助の軽減も図られた。自分でできる力を引き出しながら、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防のため、水分摂取を促したり、体を動かすようにしています。起床時は水分が飲める時間であり、お茶や牛乳を出しています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴を嫌がる方には、入浴前に好きな活動をし、嬉しい気持ちへと介助し、その後に入浴を誘っています。入浴日は決めています。希望により予定を変更し介助をしています。	利用者の体調や希望を聞きながら入浴を勧め、入浴後は保湿クリームを塗るなど皮膚の乾燥を防いでいる。体調不良により入浴できない時には、清拭などで身体の清潔保持に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、午睡や安眠が出来るよう介助をしています。ソファーを利用し、休息の介助もしています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬は薬剤情報により、いつでも見られるようになっていきます。正確に服薬するよう介助をし、症状の変化も確認していきます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、家事を一緒にし、お礼の声をかけています。また、好みの飲み物を出すことや歌や体操が好きで楽しめるよう支えています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、戸外に出てパークゴルフをしている方々の様子を見たり、野山を見て気持ちが和むようにしています。お花見、花菖蒲、コスモス、山田の名所めぐり等とドライブを計画し実施しています。また、家族と自由に外出をする方がいます。	施設周りは自然豊かな環境の中にあり、散歩に出れば広々とした解放感と共に、季節の移り変わりが身近に感じられる。季節ごとの花見や外食、地域行事に出かけた後、また、夏には牛岳ライトアップ見学にも出かけた夜の外出で利用者を楽しませている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていたい方は、家族の了解を得て、持って頂いています。そのお金で、好きなパンを買い嬉しそうにされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から手紙が届き、代読をしたり、お正月には年賀状が届き、一緒に見て楽しんでいます。家族と電話で話をしたい方がいれば、介助をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気の良い日は、暖かな日差しが入り、美しい景色が見られます。居間や居室、トイレ等を掃除し不快のないよう配慮をしています。そして、季節が感じられるような掲示物や花を飾っています。また、室温や湿度を気にし、換気もしながら調節をしています。	施設内のどの窓からでも自然の光が入り、きれいな山並みが見られる。みんなが集まるリビングには利用者の塗り絵や貼り絵などで季節の飾り付けがなされ、明るく温かみのある空間が出来ている。また日課として、午後には隣接のデイサービスへ出向きレクリエーションを一緒に行っており、共有スペースが広がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーなどを利用し、一人でいたり、気の合う者同士でいて読書等をしたり、思い思いに過ごしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族写真があったり、本人の塗り絵や母の日や父の日のメッセージカードなどを飾り、心地よく過ごせるよう工夫をしています。	娘からの心和むスケッチ画や思いやりある手紙が壁に貼ってあったり、家族写真や年賀状も飾ったりと、家族との距離が近く感じられるように、家族と協力しながら利用者が落ち着いて過ごせる居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、風呂場など手すりが設置され、過ごしやすい環境になっています。また、電動ベッドを使用しています。居室やトイレはわかりやすいよう表示に工夫をしています。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームやまだ
 作成日 平成31年 2月26日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	40	咀嚼や嚥下機能が低下している方の食事は、刻み食やミキサー食を作り提供していますが、美しい食事の提供と家族への説明に欠くことがあります。	個々の食事は口腔機能の状態に合わせた形態で提供し、家族にも理解していただきます。そして、食べたいと思える食事を提供しよう努めます。	個々の口腔機能や食事形態を見直します。刻み食やミキサー食に工夫した食事も、目で見て美しい食事へと手をかけ、食事の内容も伝えながら食事介助をします。それらは、家族に説明します。また「高齢者の食事介助」と題し、家族会で講習会を開催できるよう検討します。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。